

【最近のこれはお見事!】『たいむすりつぶメガネ』タイムスリップ…できそうな気がする(詩吟調で)。

【最近のこれはまずいぞ!】『止まない晴れ』…『やまないはれ』って読むのでしようか? こういう難読題名は、軽くないなされて損なような気がする。

シネマズライフ

2013年9月6日発行 第46号

http://p.booklog.jp/users/rion-takagi

黄樹 諒音

映画の風景 日本の風景

※ 大分県佐伯市・水ノ子島灯台 ※

豊後水道に大きな帆船が一本立っている。→



も言える。戦争に関係ないようには見えるが、灯台も狙われ燈台守達から犠牲者が出たり、生活に疲れたきよ子が「戦争が早く終わればいい」と思いつたり、庶民が戦争に振り回される様子が静かに描かれる。

水ノ子島灯台は、日本の灯台50選に選ばれ、今でも現役の美しい燈台である。この燈台も長い日本の歴史を眺めていたと思うと感慨深い。

昭和7年から昭和32年までの灯台守一筋に生きた夫婦の物語は、満州事変から高度成長時代までの日本の変化する時代と共に生きた歴史と

昔・『喜びも悲しみも幾歳月』という映画があった。こんな映画だ。昭和7年、前年には満州事変が勃発していた頃。若い燈台守の有沢四郎と妻・きよ子が東京湾の観音崎燈台に赴任した。翌年、夫婦は北海道の石狩燈台に赴任。そこで、長女雪野二年後に長男光太郎を生む。苦勞の多い毎日だが、幸せを感じる日々だった。そして、昭和12年、伊豆大島灯台、豊後水道の水ノ子島灯台・五島列島そして女島燈台に赴任する。しかし、船便が少ない島の灯台守の仕事と生活は厳しい。この厳しさを知るにつけ、四郎と妻・きよ子の生活に疲れが出始める。やがて、些細な事から口喧嘩になり、きよ子は家を飛び出してしまふが…

『喜びも悲しみも幾歳月』1957年 日本 監督 脚色 原作: 木下惠介 出演: 高峰秀子 佐田啓二 中村錦太郎 桂木洋子 田村高廣

高峰秀子、佐田啓二の演じる夫婦が映画で理想として描かれているのはやはりこの時代でも「夫婦」のありようが変わっていった時代なのだろうと思う。

コラム
自然と人が共存するということ。
後編

当時は高度成長の真っただ中。第2次世界大戦後の日本は海外に負けじと国民が一丸となり、高い教育水準・働く意欲がある労働力と安い賃金・高い技術力・円安相場(固定相場制)ドル11360円)なども後押しし、55年から73年の間は年平均10%以上の経済成長を果した。



↑立山の高原空気と山々が美しい。

種類の家電製品は三種の神器などと言われ、「働けば、報われる」という高揚感もあった時代でもあった。

今、黒部ダムは観光化され数々の映像化で、苦難の工事は伝説化されているが、制限などされているにも関わらず、立山の自然はやはり劣化していつていくという。

今ではこの自然を破壊し巨額の金額を投じる計画は実行される事はないだろうし、高度経済成長期時代のようになくなくなり、企業も《儲ければ社員にも還元》という思いは無くなっている。高度経済成長期時代の成長はとて期待できないだろう。

恐らく《時代》というものが後押しした部分もあり、日本の庶民も給料がどんどんアップし、テレビ・洗濯機・冷蔵庫の3

悲鳴を上げるように人間を拒否していた立山を無理やり開発し劣化した自然と同じように、日本人も劣化しているかもしれないと思うと悲しいかぎりだ。

終。

☆【最近のこれはお見事!】は見事な映画の題名の紹介、反して【最近のこれはまずいぞ!】は「これは、まずいぞ!」と思う題名を紹介しています。

on air !

CS・BS放送のオススメ映画を紹介します！

『ミリオンダラー・ベイビー』

ムービープラス
2004年 アメリカ
監督・出演:クリント・イーストウッド
出演:ヒラリー・スワンク モーガン・フリーマン
9月12日(木)13:30 9月12日(木)23:00
9月25日(水)21:00 9月30日(月)11:00

トレイラー・ハウスに住み、プロボクサーになり極貧の生活から抜け出そうとロサンゼルスにやってきた31歳のマギー。名トレーラーとして名高いフランキー・ダンのボクシング・ジムを訪れる。フランキーは名トレーラーだが、慎重さが災いしてボクサーが居つく事はなかった。最初は、「女性ボクサー」は入れないと言っていたフランキーだが、昔からの親友のエディの助言を受け、ウェイトレスをしながらジムに通うマギーのトレーニングを引き受ける事にする。マギーはフランキーのコーチの元どどん腕を上げ、お互い身内に恵まれない二人は友情で結ばれていく。やがて100万ドルものビッグ・マッチの話が持ち込まれるが、相手は反則が多い危険な相手だったが受ける事にするが...

ヒラリー・スワンクのボクサーぶりは必見。

『オズの魔法使』

WOWOWシネマ
1939年 アメリカ
監督:ヴィクター・フレミング
出演:ジュディ・ガーランド パート・ロー ジャック・ヘイリー
レイ・ポルジャー マーガレット・ハミルトン
9月10日(火)7:00

カンサスでおじさんとお婆さんと暮らしている少女ドロシーと愛犬のトト。しかし、農場の大地主・ミス・グルチは、トトを目の敵にして「このままトトを飼っているとこの農場にはいられなくてやる」と脅かしますが、ドロシーとトトはショックで家出。ところが、嵐が巻き起こり思い直して家へ帰ったとたん大きな竜巻に巻き込まれ、家ごと吹き飛ばされてしまいます。飛ばされた先はオズの国のマンチキンという町。ドロシーの乗った家はなんと！町に住んでいた悪い東の魔法を押しつぶしてしまっただけです。住民達は大喜びですが、そこへ東の魔法の靴の事で西の魔法に睨まれてしまいます。北の魔法に「家に帰る道はエメラルド・シティに住むオズの魔法使いに聞きなさい。」と教えられドロシーとトトはマンチキンの町を出発。途中、空っぽ頭の案山子、心のないブリキ男、勇気のないライオンと出会いエメラルド・シティに向かいます...。ミュージカル映画の名作中の名作。この時代の極彩色カラーの美しさは、また格別です。

★CS・BSのオンエア時間は変更になる場合もあります。

★読んで頂いてありがとうございます。よろしかったらコメントで感想・お叱りお聞かせください。よろしくお願ひします！ 貴樹諒音

『讃歌』

1972年 日本
監督・脚本・製作:新藤兼人
原作:谷崎潤一郎

出演:津島恵子 尾原謙次郎
乙羽信子 新藤兼人



普通の生きている人間は、そうそうわがまま三昧に生きて生ける訳でもないが、この物語で描かれる春琴とそ

大阪道修町の菓屋の娘・春琴は9才の時に失明。それから、琴三弦を習うようになり、その天才的な資質を開花させた。丁稚の佐助は、そんな春琴に仕える事を命じられ、熱心に尽くし始めるが、春琴のわがままは増すばかりだ。日常生活のすべての面倒を見る佐助とそれに甘んじる春琴の奇異さは巷の噂になっていた。ところが、ある日春琴が身もつた事が発覚する...

の要求に答えようとする佐助・二人の壮絶な『自己中』ぶりは、ここまで貫かれると逆に崇高ささえ感じる。『わがまま』に徹する春琴と『奉仕』する佐助、二人の求める『業』が一一致した時、人には理解できない『愛』が生まれたのだろう。

時に映画宣伝で『ボルノか芸術か!』などと謳う映画があるが、この映画も一歩間違えばしつかり『ボルノ』になってしまうが、さすが新藤兼人監督、巷に言われている(SM関係)の指摘を超え、人間の飽くなき業を描いた作品となっている。やはり、この映画も新藤監督の飽くなき業で映画を撮り続けた人のなせる技だと思ふのだ。

★次回発行予定:8月は第二・四金曜日です。次回発行は9月20日発行です。

★次回発行予定:8月は第二・四金曜日です。次回発行は9月20日発行です。

【編集後記】

☆台風も二つやってきて日本は少し涼しくなってきた。このまま一気に気持ちいい秋になってほしいものです。

☆そこで一句。気が付くとセミ鳴く声も涼風がち秋はもうすぐ秋支度



シネマズライフ 46号

発行人:貴樹諒音

発行日:2013年9月6日

cinemaz-life@movie.nifty.jp

告知ブログ

http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayu/

シネマズライフーcinemaz-lifeー4 5号

<http://p.booklog.jp/users/rion-takagi>

著者：貴樹 諒音

メールアドレス cinemaz-life@movie.nifty.jp

著者紹介ブログ 『明後日の憂鬱』

<http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/2012/01/post-bcc7.html>

[《ムービープラス》](#)

[『ミリオンダラー・ベイビー』](#)

[《WOWOWシネマ》](#)

[『オズの魔法使』](#)

映画の感想は現在・下記のサイトにアップしています。

ぜひ、ご覧くださいませ。

Yahoo!映画

rion_takagiのMyムービー

<http://my.movies.yahoo.co.jp/profile-g.uFIUaEfCFw6D1cq3gb5A-->

※& 他にもいろいろやっています。(^^;) ※&

お世話になっているインターネットTV

[netchannel KYO](#)

内で番組作っています。

『カラフルタイムズ』

新タイプの映画紹介とコラムです。

m(_)m ダウンロードで鑑賞できます。m(_)m

http://www.nc-kyo.com/watchtvprogram_karafuru.html

『オススメ犬映画』

<http://www.pet-c.net/column/movie/index.php>

犬の映画を紹介しています。

§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※

感想はこちらのコメント欄かメールを頂けたら幸です。

cinemaz-life@movie.nifty.jp

§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.